



宮司プレス 105

彦島八幡宮 宮司ニユース
 発行者 彦島八幡宮
 宮司 柴田 宜夫
 発行 平成二十七年 八月三十一日

◇宮司の柴田です。 お待たせしました、宮司プレス第百六号の発行です。 台風一過（たいふういつか）、凌（しの）ぎやすい昨今です。 今月の二十五日に、下関地方を通り越した台風十五号、平成三年九月、彦島をはじめ下関市内一円に、甚大なる被害をもたらした、台風十七号の再来かと危惧（きぐ）しました。 境内の二本の南京黄櫨（なんきんはぜ）が、倒木（とうぼく）となる危険性を孕（はら）んだ事態に至りましたが、事なきを得ました。 「天災は忘れた頃にやってくる」、これは、夏目漱石さんの門下生で物理学者の寺田寅彦（てらだ とらひこ）さんの言葉だとされています。 高知市の居宅（きよたく）の跡地にある碑文（ひぶん）には、「天災は忘れられたる頃来る」とも刻まれています。 その寺田寅彦さんは、「ものを怖がらな過ぎたり、怖がり過ぎたりするのはやさしいが、正當に怖がることはなかなかむづかしい」とも述べられました。 先々代の当宮の責任役員総代長であった、今は亡き河野安雄翁（かわのやすお おう）は、「彦島ちゆうところには

のう、昔から天災が、無いけえ」とおっしゃっていました。 まさに、このことが、寺田寅彦さんのおっしゃった「怖がらな過ぎたることでしょう。 河野翁の仰せのとおり、そのように思いたいのですが、予測の出来ないゲリラ豪雨、土砂災害等の災害が引き起こされているのが、昨今の異常気象です。 やはり、寺田寅彦さんの仰る「怖がり過ぎ」たりもしながら、不安な気持ちで過ごした、台風一過の一日でした。

◇大自然は、時には甚大（じんたい）な災害を引き起こしますが、花を咲かせ実り、豊かな恵みを与えてくれるのです。 まさに、「厳父（げんぷ）慈母（じぼ）」、厳しさと慈しみあふれる優しさを併せもっているのが、大自然の営みなのです。 そして、その大自然の中で生かされて生きているのが、私共なのです。 天地（あめつち）の恵みを恐れ敬い、今ここにある命に感謝し、感謝の心をつなぎ、運命共同体としての地域社会を築き上げていかなければと思います。 まさに、「天恐地敬人愛（てんきょうぢいじんあい）」です。 ちなみに、この「天恐地敬人愛」とい

う言葉は、五年がかりで読了した、宮城谷昌光（みやぎや昌光）さん著作の「風は山河より」全五巻の中に書かれていました。 ◇宮司プレス既刊の第四十三号（平成二十一年十二月発行）にも記述しましたが、寺田寅彦さんの師匠である夏目漱石さんは、晩年に、「則天去私（そくてんきよし）」という言葉を残されています。 大自然に身を委（ゆだ）ね、私利私欲をかなぐり捨てて生きていく、これが、「則天去私」です。 天恐地敬が、まさに、則天であり、人愛が、去私になるのだと思います。 つまり、寺田寅彦さんの仰った、正當に怖がる心構えが、「天恐地敬人愛」で、その生活の目当てが、「則天去私」なのではないかと考えます。 損か得かは、やはり、「人間のものさし」なのです。 真実か偽りか、うそか誠か、正義か邪悪かという、「神様のものさし」で生活をする事が大切です。 その「神様のものさし」の生活こそが、「天恐地敬人愛 則天去私」なのではないのでしょうか。 その「神様のものさし」の生活が、私は、神様、大自然、ご先祖様、地域社会とつながり、共に生きる「共生」だと思います。 日本最古の歴史書である「古事記（こじき）」の上巻に、伊邪那岐伊邪那美（いざなぎいざなみ）夫婦の神様が、お二人で、島や神様をお生みになったことが記述されて

います。「凡(すべて)て、伊邪那岐伊邪那美二柱(ふたはしら)の神、共に生みませる島、十四島(とをまりよしま)」。神、三十五柱(みそぢまりいつはしら)。」と原文にあり、「すべて、伊邪那岐伊邪那美二神が、ご一緒にお生みになされた島は十四、神は、三十五神。」と訳すことが出来ます。古事記には、「共生」は、共に生きるのではなく、共に生むと書かれています。共に生きるのが、現状維持であるとするならば、共に生むのは、新しいものを作り上げていくことになるのではないのでしょうか。

◇先月発行した、宮司プレス百五号には、経済論家の堺屋太一さんの提唱されている、「楽しい日本をつくる」というお話を掲載しました。「楽しい日本」をつくるには、共に生き、現状維持をはかりつつ、共に生む、新しい歴史文化を生み出す、「共生」が、必要なのではないのでしょうか。ご自愛をお祈り申し上げます。

◇七月の祭典行事報告

- ▼月次祭 *七月一日、十五日
- ▼七社祭(六連島) *七月九日
- ▼福浦金刀比羅宮月次祭 *七月十日
- ▼ヒコットランドマリナービーチ海開祭 *七月十五日
- ▼竹の子島天満宮例祭 *七月十五日
- ▼朝粥会 *七月二十一日
- ▼夏越祭

- ◆田の首八幡宮 *七月二十四日
- ◆六連島八幡宮 *七月二十五日
- ◆本宮

◇前夜祭 *七月二十九日
◇本殿祭、御神幸祭 七月三十日



◆海士郷恵比寿神社 *七月三十一日
◇七月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

- ◆敬神婦人会役員会 *七月六日
- ◆敬神婦人会境内清掃奉仕作業*七月十九日
- ◆とこわか奉納グランドゴルフ会夏越祭大会 *七月十九日

◆夏越祭茅の輪奉製、屋形組立奉仕作業
※行事委員会、維蘇志会 *七月二十七日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

- ◆山口県神社総代会役員会、山口県神社庁役員会 *七月二日
- ◆山口県神社庁支部長事務局局長会議、教学研究部委員会 *七月三日
- ◆新しい日本の憲法を作る山口県民の会設立総会 *七月四日

- ◆英霊顕彰中国地区講演会 *七月八日
- ◆下関支部敬神婦人会役員会 *七月十四日
- ◆遠石八幡宮黒神宮司就任祝賀会 *七月十五日

◆山口県八幡宮会総会 *七月十六日

◆巡回祭典後講話研修会

※川棚神社にて開催 *七月二十二日
◆神職養成講習会開講奉告祭奉仕ならびに開講式 *七月二十七日

▼教誨活動 ※美祢社会復帰促進センター

- ◆集合教誨(女子) *七月十三日
- ◆集合教誨(男子) *七月二十七日
- ◆講演活動

◆東亜大学李良姫(イ ヨンヒ)

教授の留学生ゼミにて講演 *七月十六日

◆リバース彦島例会にて卓話 *七月二十五日
▼下関西ロータリークラブ例会

◆例会 *七月一日、八日、十五日
▼その他

◆下関市消防団ポンプ操法大会彦島分団
激励会 *七月十一日

◆リバース彦島例会 *七月二十五日
◆宮司プレス第百五号発行*七月三十一日